

ミライマバリDXプラン 概要版

—今治市デジタル未来戦略—



今治市のデジタル未来戦略のキャッチフレーズは「ミライマバリ」です。

これはミライ mirai + imabari イマバリの造語です。

DXは目的ではなくあくまで手段であり、考えるべきは今治の未来です。

その未来に向けて考えていく姿勢を、シンプルに分かりやすい言葉で表現しました。

「i=市民」を“今治”の“未来”を描く際の真ん中に据えて、取組み姿勢とアクションを体現していきます。

市役所内の部署間で連携することはもとより、市の事業者様、市民の皆さんと連携することで、

日本のどこにもない、あたたかみのあるDXを今治市で実現していきます。

デジタル未来戦略の基本方針

【コンセプト】

人に寄り添う日本一アナログなDX

【実行方針】

「市民が真ん中」になる活動、
時間を生み出す「しない」DX

【実行成果】

誰もが住み続けたい「心地良さ」「便利」

間接指標＝シビックプライドを示す居住・居住推奨意向の向上



方針に沿って基本理念を実現するために、以下の3つを進めていきます。

コンソーシアムの形成

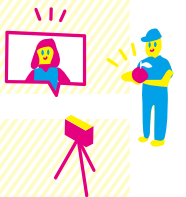
- 新しく参画したい企業、組織と共に「仲間づくり」できる活動
- 新しい今治市を考えるためのコミュニティをデザイン

アジャイル型

- 計画を立ててその通りに履行していくのではなく、勉強会・プロトタイプを重ねながら改良していく

活動過程の広報 (プロセスブランディング)

- 経過を見せることで、仲間づくりのスピードを速める



市役所から先端的なDX行政を取り入れ、 この発想があったかというみんなに見せたい DXまちづくりのミュージアムを目指します。

島しょ部と陸地部にまたがる広い市域は、
今治の暮らしを考える上で大きな課題です。
デジタルを活用し距離の不便を感じない、
実質「ゼロ距離」生活を目指します。

また、リモートワークやワーケーションなど、
新しいスタイルで働きたい「転職なき移住者」や
「多拠点居住者」にとって魅力的な環境であることを
アピールして、移住者を多様な形で迎え入れます。



ミライマバリアクション

施策 /

1

しまなみ海道「ゼロ距離」生活の実現(④空間距離のDX)

- 陸地部と島しょ部をライブでつないで、コミュニケーション促進や健康づくりに活用
- 自動運転やドローンを移動や配送に使用して、生活をもっと便利に
- 市役所の支所と本庁をオンラインで接続し、身近な窓口で複雑な手続きや相談が可能に!

施策 /

2

心地好く「住む」リモートで「働く」日常がワーケーションな移住先進地に(⑦移住のDX)

- オンライン移住ツアーやバーチャル移住体験。方言の魅力なども盛り込む
- 独自ポイントや地域通貨の導入も検討
- ワケーションのモデルツアーを実施し、ガイドブックを作成!
- オンライン移住相談会、随時開催中!
「いまばり暮らし」ホームページで移住情報を発信中!



ミライマバリアクションは
次のアイコンで実装レベルを
表現しています

- 構想段階: アイデアや夢。「こんなことができるといいな」「こんなこともできるかも」
- 検討中・研究中: まだ具体的な段階ではないが、検討したり情報収集しているもの。あるいは、他自治体で事例があるものなど。
- 試験導入・実証実験中: 試験的に導入してみたり、実装が可能か実証実験で試しているもの。
- 実施中・展開中: 既に市や関連機関で実施しているもの。今後の展開、拡充が見込まれるもの。

デジタル・アナログにこだわるのではなく、 住民対応のクオリティを高め、 人と人とのつながりをより大切にするための 手段としてDXを活用します。

24時間いつでも、どこからでも手続きできるオンライン市役所や、

一つの窓口で手続きが完結するワンストップを目指します。

そのために、まずは行政事務の整流化を行います。

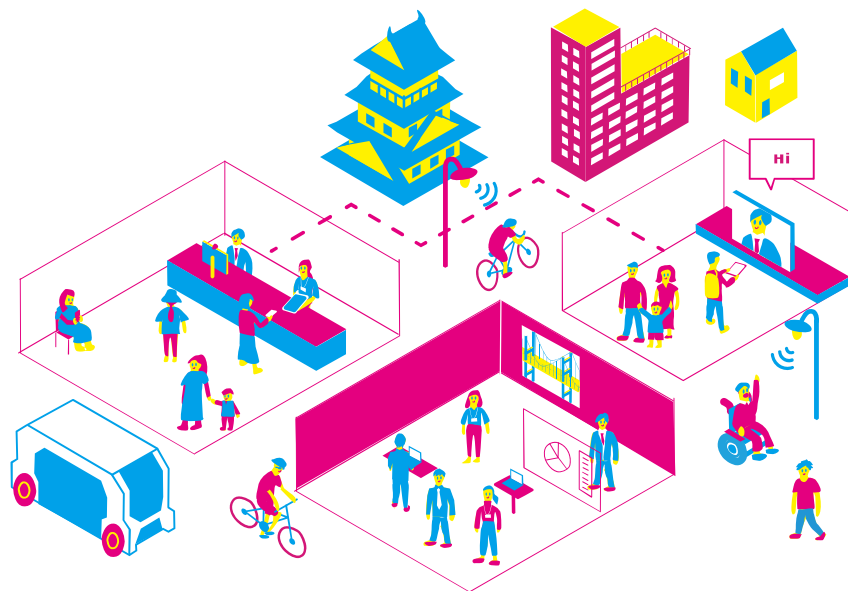
このため業務プロセス自体の見直しからはじめ、

どうしてもなくせない事務処理の自動化、省力化を行います。

デジタル化そのものを目的とするのではなく、時間のかかる義務的な

仕事を減らすことで、窓口対応など人にかかわる業務に注力し、

あたたかみのある市役所を目指します。



ミライマバリアクション

施策 /

1 時間や場所にとらわれずワンストップで
サービスが受けられる手のひら市役所(①住民サービスのDX)



行政手続きの順次オンライン化、ペーパーレス化



AIチャットボットによる24時間問い合わせ対応



市民課にて「おくやみコーナー」「書かない窓口」「待たない窓口」実施中!

施策 /

2 業務のデジタル化による生産性向上とスマートな行政運営(③業務改革のDX)



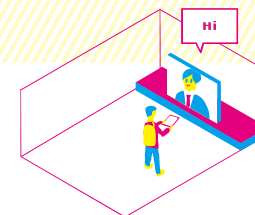
BPRにより業務を改善、職員によりよいサービスのための余裕をつくり出す



オンライン申請により住民の利便性を高め、かつ、ペーパーレス化を促進



RPAによる業務の自動化、順次導入中!



ミライマバリアクションは
次のアイコンで実装レベルを
表現しています

- 構想段階: アイデアや夢。「こんなことができる」といって「こんなこともできるかも」
- 検討中・研究中: まだ具体的な段階ではないが、検討したり情報収集しているもの。あるいは、他自治体で事例があるものなど。
- 試験導入・実証実験中: 試験的に導入してみたり、実装が可能か実証実験で試しているもの。
- 実施中・展開中: 既に市や関連機関で実施しているもの。今後の展開、拡充が見込まれるもの。